

『米騒動100年プロジェクト』ポスト企画

2018年12月8日(土)

第1回 〈68〉年から50年の〈後〉に

- 電気紙芝居『聖橋』エレジー ——ある〈不成^{ナラズ}〉者の軌跡——」
- 〈米騒動100年プロジェクト〉を終えて

タイムスケジュール

13:30 開始

はじめに

電気紙芝居『聖橋』エレジー ——ある〈不成^{ナラズ}〉者の軌跡——」

〈68〉年から50年の〈後〉に

〈10分休憩〉

15:15



〈米騒動100年プロジェクト〉を終えて

次回の案内

16:30 終了

米騒動ポスト企画 スクリプト(台本)

電気紙芝居：『『聖橋』エレジー——ある〈不成〉者の軌跡——』

タイトル・文字・画像など	音・留意点など
<p>0. 黒い画面 タイトル 白文字で 〈68〉年から50年の〈後〉に フェードインし、フェードアウトする。</p>	
<p>1.</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>	<p>『聖橋』2つの画像～黒の画面に一つずつゆっくり浮かびあがる。少し間をおいてフェードアウトし、黒の画面で Les choses de la vie - Philippe Sarde の音楽を入れる。</p>
<p>2. 「●電気紙芝居「聖橋エレジー——ある〈不成〉者の軌跡——」 タイトルが浮かびあがる。</p>	
<p>3. セピア色の地に、茶色の字</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>『聖橋』ってご存じだろうか？とても優美な形の橋だ。文京区湯島と千代田区駿河台を結んでいる。下に御茶ノ水駅があり、その先を地下鉄丸の内線が走っている。 これは『聖橋』にまつわるある男—その男は自分のことを、『不成』者と呼んでいるのだが—の物語である。</p>	<p>それとオーヴァーラップして、画像2枚をフェードイン、フェードアウト</p> <p>「思い出の街」の音をかぶらせる。前奏後～1:32まで。</p>
<p>4. 1954年：大學浪人中だった私はよく映画を見ていたのだが、この年に観た「足摺岬」は、「我が生涯の映画の</p>	<p>画像5枚をゆっくり入れる。それらにかぶせて（「伊福部昭映画音楽</p>

一つ」となった。

いわゆる「暗い谷間」の時代の苦学生が生きるよすがを喪い、足摺岬まで死場所を求めていくという地味で暗い映画で、その年の「キネマ旬報」の「ベストテン」にも入らないものだったが、私には忘れられない映画だ。その映画の今も記憶に残るシーンの一つに、ほのかな恋心を抱いていた娘が郷里へ帰るのを見送る『聖橋』でのシーンがあった。



全集 1]アナログ盤) 音楽の 10 : 16

~ 11 : 32 を入れる

5.

1956 年：翌 55 年、私は大学に入学、折から「六全協」の季節だったが、お定まりの『戦後青春の範型』を歩く。

その頃、「私の庭」とまではいえないが、私はよく「御茶ノ水駅」から歩いて、神田神保町の古本屋街に出かけた。

(松原健之 「思い出の街」)

1 題目だけ

6.

1957 年：そんな古本屋街での彷徨のなかで出会った彼女とその界限、とりわけ『聖橋』周辺をあきずに歩き回った。そのころ東京にはまだ歩くところがたくさんあった。



前奏部抜きの湯原昌幸「青春の坂道」) 1 題目の音楽を入れる。

7. ④の字幕と画像 2 枚を入れる。



1960 年：「六全協」を契機に日本共産党の指導を蹴った学生運動（新左翼学生運動）に驚掴みにされた私は、折からの「安保改定」をめぐる「60 年安保闘争」にのめりこんだ。

そして、・・・6 月 15 日が出来る。・・・榊美智子さんの虐殺死！・・・

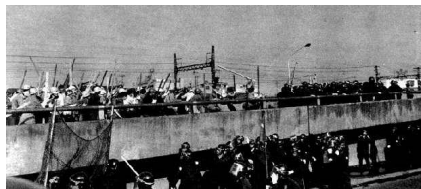
その『合同慰霊』のデモが本郷通りから『聖橋』を渡って 国会へ向かった。

一兵卒であったとはいえ、いや、一兵卒だったからこそ、「60 年安保闘争」は私に大きな宿題を残した。

字幕の後に(さだまさし「檸檬」)
1 題目+間奏を入れる。

8 .

1967 年：それから数年その宿題を抱えた彷徨は続き、その間に私はとある地方に職をえて、東京を離れた。



彷徨と職を果たすことの危うい均衡のなかで、私は、その地方の「60 年安保」の残党と出会い、東京における 60 年のあとを競い合う政治潮流をはるかにながめながら、その地方で『自立-共同』の戦線の創出を企てた。

「二つ、三つ、数多くのヴェトナムを創れ」-キューバを離れたチェ・ゲバラが世界へ向けて発したことばが、私・たちの合言葉だった。

「・・・離れた」のあとに、
(東京流れもの(カラオケ)竹越ひろ子) 前奏なし、後奏なし、画像なしでいれる。

「・・・企てた」のあとに
(12 - 佐藤栄作訪米阻止・羽田空港闘争 - 1967) 小さな音で入れる。



9.

68年：その企てが稔るだろうと見極めて、私は別の地方へ移転した。折からの世界中の「ベトナム戦争反対」と「スチューデントパワー」の昂揚と対応して、この列島の各地で「ベトナム反戦運動」と「大学占拠=大学解体闘争」が展開される「騒乱の季節」の中で。



それまでなんとか60年からの彷徨と職を果たすことの危うい均衡を生きて来た私にとって、「大学解体闘争」は、その職の根幹にかかわる〈問い〉を突き付けるものだった。思い返せば、私の移転は、60年以來の彷徨に決着をつける「『死』地へおもむくこと」ことだった。



(昭和ブルース／全共闘・高校全共闘・浪人共闘・学生運動・新左翼) 音なしでを入れる。

「東大闘争」と1969年1月の「安田講堂をめぐる攻防」はその「騒乱の季節」を織りなす一つのピークだった。

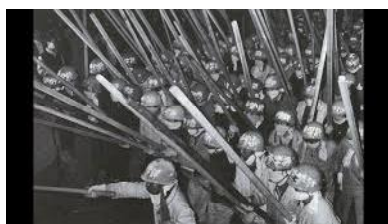
その「攻防」を「善意の第三者」のごとくに見守ることを、じぶんに許すことが出来なかった私は、せめてのこととして、「安田講堂戦支援神田解放区闘争」に参加した。それは「神田カルチェ・ラタン闘争」とも自称され、それを押しとどめよとする警察権力との激しい攻防があり、一時は機動隊を『聖橋』方面へ逃走へさせもした。



【昭和の風景】③ 1969・1・15
～ 19 東大闘争（医学部図書館砦戦、工学部列品館砦戦、法学部研究室砦戦、安田講堂砦戦、神田カルチェ・ラタン解放区闘争）
を音なしで入れる

10.

その年の秋の末、「11月決戦」と呼ばれる、60年安保闘争から70年にいたる諸闘争のいわば「天王山」とでもいうべき闘いが、都内の各所で「佐藤首相訪米阻止闘争」として展開される



「怒りを歌え」1969・10・21
国際反戦デー（新宿制圧、破壊活動 弾圧粉碎）の映像をいれる。

黒画面 赤文字

その一環としての「10・21 国際反戦デー」に、私が60年代の前半に職を得て出向いた地でその後共に創出しようとしてきた「自立と共同」戦線の仲間が決起し、

<p>その過程で警察権力の激しい暴行にあって、「内臓破裂」という重傷を負い、近くの病院に「収容」されるという事態が出来する。</p>	
<p>セピア画面 茶文字</p> <p>『21 日、午後 7 時 50 分頃、革共同系反戦のヘルメットをかぶった 50 人～ 60 人の反戦派労働者と、80 にんの機動隊員とが衝突した際、一人の反戦派労働者北川四郎という男とが戸塚署周辺の路上で、私服機動隊員、警視庁大八機動隊、和田健作巡査と衝突四、瀕死の重傷を負い、救急車で近くの大同病院に運ばれたが、重体のため、更に、東京女子医大病院に運ばれ、緊急手術を行ったが、一貫して身元を明かさず、連絡先として、港区西新橋二の六の八浅野ビル内斎藤浩二という名と、591 - 1301 の電話番号を持っていたが、この電話番号は、学生側の救援対策本部なので、学生側の一員であると警察はみている。』（1969 年 10 月 22 日「毎日新聞」朝刊）</p>	<p>「新聞記事」をローリングで入れる。</p>
<p>とるものもとりあえず上京した私は、在京の友人・知人の協力を得て「北川四郎救援会」（* 2）なる前代未聞の「個人救援会」を立ち上げた。周囲からの「個人救援会」とは何事だという批判を浴びながら、「救援活動」を続けた。</p> <p>生死の境をさまよいながらも、「591 - 1301：ゴクイリイミオオイ」という「救援連絡センター」（* 3）の電話番号のみを繰り返し続けた彼の強靱な意志に、警察権力も引かざるをえなかった。それでも、「病院」からでるには 3 か月を要し、高額の治療費を請求された。</p> <p>その間、繰り返し東京を駆けずり回り、集まっては何度も何度も「救援会議」をひらき、話し合った。</p> <p>－「聖橋」近くの、とある喫茶店でのことだ。</p>	
<p>黒画面</p>	<p>音 (Einheitsfrontitled Piano)</p>
<p>11. 1974 年：忘れもしない、「救援活動」の最終的な後始</p>	

末に上京した 1974 年 8 月 30 日のことだ、あの「三菱重工本社ビル爆破」が出来したのは。



三菱重工ビル爆破事件の現場

その行動に向けて「東アジア反日武装戦線」（と、事後判るのだが）の二人のメンバーが合流したのが、『聖橋』近くの路上であったという。

（茶木みやこ『泪橋』）
2 題目まで、音だけ

はからずも、私は、数えきれないくらい利用してきたいつもの『聖橋』近くの喫茶店にいた。そのほんの一跨ぎとでもいうべき距離の何という遠さ。その遠さにこそ、その時点のこの列島の社会運動の状況の核心があったのだ。

（あさみちゆき「青春のたまり場」）
音だけ

・・・連合赤軍・・・東アジア反日武装戦線・・・
・そして・・・？

1 2.

1978 年：全て何事もないかのように回転する市民社会、その間をぬうただのっぺりとした交通路と化した街路、おのれの職の根底の再審をもって応じようとした 68=69 年の激動の後の白々としたキャンパス―「世界の真昼 この痛ましい明るさのなかで人間と事物に関するあらゆる自明性に傷つけられて」、「死」にはぐれた私はおろおろと生きていた。

（山崎ハコ『光る海』）前奏なしで
1 題目だけ



そんな私を「読まれないことをめざして、小説を溜息ついて書いている」ようだと私の最も手ごわい搦め手が

<p>言う日々が過ぎて行った。 おのれの職の根底でどんなにあがいても、核心に迫りえない日々が過ぎて行った。</p>	
<p>13. 黒画面 白文字 それから何年も、何年も、ただ〈68〉年の記憶を抱えて・・・蹲りながら過ぎていった。</p> <p>私の近隣を転生をへたテント劇団が通っていったこともあったし、『チェルノブイリ』の惨劇にうながされた女性たちのざわめきを耳にすることもあった。 遠く『天皇代替わり』と闘う者達の叫びを風聞することもあった。 果たしえぬ〈問い〉を抱えてうずくまる日々を生きる私は、ただ〈不成^{ナラズ}〉者でありたかった、ただただ〈不成^{ナラズ}〉者でありたかった。</p>	<p>(中山ラビ「人は少しづつ変わる」) 音だけ</p> <p>藤竜也「夢は夜ひらく」 0:11 ~ 1:00、1:18 ~ 4:21 をかぶせる。</p>
<p>14. 赤画面 黒字 「2018年 :〈68〉年から50年」</p>	
<p>赤画面 黒字 かつて 50 年前の「騒乱の季節」を駆け抜けようとした者たちも老い、高齢となり、「ケア」の対象となる時代となった。 私はその者たちに〈檄〉を飛ばしたかった、〈檄〉を飛ばしたかった。</p> <p>『かつて 60 年の、〈68〉年の戦場を、熱い身体で駆け抜けようとした諸君！ 今も傷は痛むか、今も傷は癒えぬか 身を立て、名をあげ、なお傷は疼くか 功も成さず、業も積まず地を這いながら、なお傷は膿むか 世に君臨し、世に背をむけ、なお傷は深まるか かつて 60 年の、〈68〉年の戦場を、熱い身体で駆け</p>	<p>その後の『 』はゆっくりローリングし、(the flag (cover)) 音だけ</p>

抜けようとした諸君！
 曰く「2025年問題」
 曰く「超少子高齢化社会」
 曰く「一億総活躍社会」
 曰く「我が事・丸ごと共生社会」・・・
 我・らは 対象= OBJECT であるか、手を差し伸べられ、
 介護され、支援される対象= OBJECT であるか
 我・らは OBJECT する=反逆する者ではないのか、ひとつの直接性としてある者ではないのか、在ることが世界の果てにいたるまでの反逆である者ではないのか
 「全世界を獲得するために！」 それは幻の旗であるか
 「大学解体・知性の叛乱！」 それは幻の旗であるか

 かつて60年の、〈68〉年の戦場を、熱い身体で駆け抜けようとした諸君！
 おお 時は巡ってきた
 おお 反逆の再開の時は巡ってきた おお 反逆の再開の時がきた
 かつて58年前に、50年前に「阻止」・「粉碎」出来なかった負の果てたる今日ただ今のこの列島の『宰領』・『差配』者に、突きつけ、宣言する時がきた
 「我ラ高齢者ハオノレノ生ノ自治ヲススメ、我ラハ君ラカラノ自律ヲ宣言スル」と責め寄る時がきた

 「全ての生の無条件の肯定！」の旗の下〈高齢者生存組合〉に結集せよ！！ 』

旗の画像

旗の画像

15. セピア画面 白文字

この年の厳しく苦しかった夏がようやく過ぎ、少しばかり秋の気配が感じられたある晩、ある女性から電話をもらった。その女性とは、44年前あの「北川四郎救援会」で、黙々と仕事をし、優しく私・たちを支えてくれたひとだった。
 なにかで私の名を見て、電話をくれたとのこと。北川

ゆっくりローリングし、(堀内孝雄『聖橋の夕陽』プロモーションビデオ) 1題目だけ、音だけ

四郎が逝って 15 年。なんという懐かしさ。

ゆくりなくも 1990 年代の半ば、やむを得ない用事で上京した折に、偶然彼女と聖橋で出会った時のあの夕陽を、その夕陽の中の彼女を、思い出していた。

なんという懐かしさ、私はほとんど言葉をうしなっていた。あれから 22 年、あれから 44 年・・・

16.

・・・いや、懐かしさにひたっているわけにはいかない・・・始めたばかりだったじゃないか、未だ始めたばかりだったよ・・・

そうだろう、北川四郎、北川四郎、そうだろう・・・
始めたばかりなのに、終わるわけにはいかないよ・・・
終わるわけにはいかないよ・・・

なあ、北川四郎・・・！

なあ、北川四郎・・・！

(Les dernières larmes de Romy Schneider)

17.

あー『聖橋』、
我が身体が、よしわたることかなわぬとも、
我が魂は、かならずや『聖橋』をわたり、
〈68〉年から続く
一筋の〈街頭〉を行くだろう、
いや、いかねばならぬ・・・



(岡林信康 「自由への長い道」)
前奏抜きで音楽をかぶせる。

ゆっくりフェードアウトする。
その後、黒画面で音楽をながす。

(Les choses de la vie - Philippe Sarde)

次回

第2回 米騒動100年プロジェクトポスト企画

2019年1月12日(土) 13:30

サンフォルテ305 号室

● TALK & DISCUSSION

入江公康さん：『〈都市への権利〉を生きる〈サンディカ〉』

生・労働・運動ネット 富山 代表 埴野 謙二

〒930-0009 富山市神通町3-5-3

TEL : 076-441-7843 Fax : 076-444-6093

URL : <http://net-jammers.net/>

E-mail : jammers@net-jammers.net